

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2014/05/01

ユーロは5月も脇役に

通貨ペア	基調		ページ数
ユーロ/円	➡	方向感を模索 予想レンジ: 139.000~143.700円	2-3
ユーロ/ドル	↘	ドルが主導する展開 予想レンジ: 1.35000~1.40000ドル	4-5
ポンド/円	➡	「リスク要因」を探る流れ? 予想レンジ: 167.000 ~ 175.000 円	6-7
ポンド/ドル	↗	BOE四半期インフレレポートに期待 予想レンジ: 1.63000 ~ 1.71000 ドル	8-9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



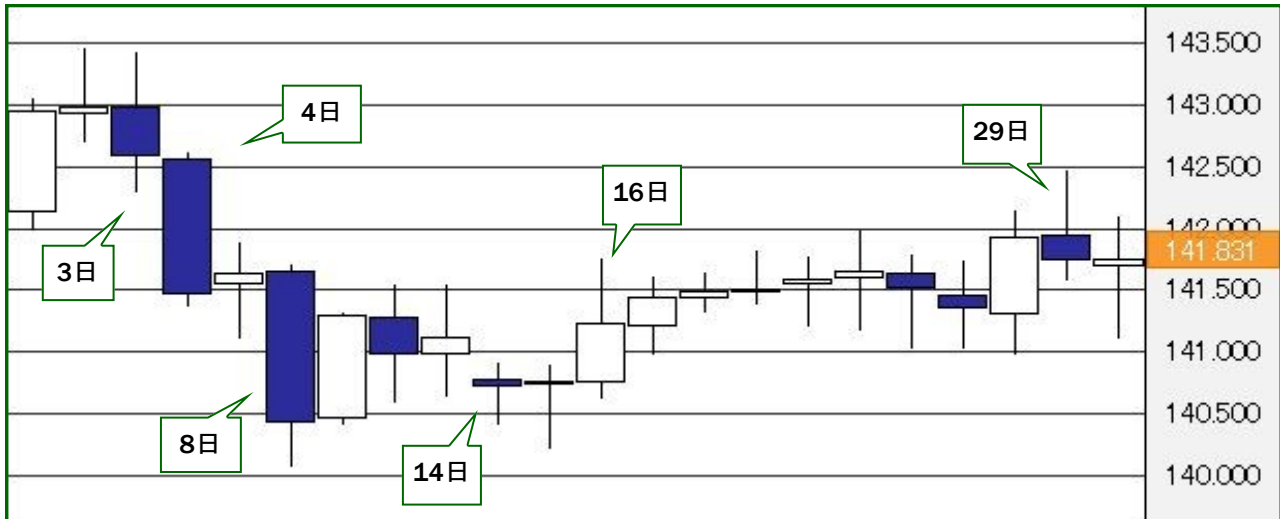
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

EUR/JPY

ユーロ/円 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	142.150円	143.471円	140.084円	141.751円



3日	欧州中銀 (ECB) が政策金利 (0.25%) の据え置きを発表し、その後の会見でドラギ総裁が「緩やかな景気回復が進んでいる」などと発言すると瞬間的に143.437円まで上昇した。しかし、同総裁が続けて「追加金融緩和について排除しない」「非伝統的措置を活用する事について全会一致」「利下げやマイナス預金金利について協議した」「量的緩和は利用可能な一手段」などと発言すると一転してユーロ売りへと傾斜し142.303円まで下落した。
4日	独紙フランクフルター・アルゲマイネ (FAZ) が「ECBが1兆ユーロの量的緩和の効果について試算」と報じた事がユーロ売り材料となった他、米3月雇用統計の発表後に当時の史上最高値を付けたNYダウ平均が高値警戒感から急反落した事が円買いを誘い、ユーロ/円は141.377円まで値を下げた。
8日	日銀が金融政策の据え置きを発表し、その後の会見で黒田総裁が「追加金融緩和は現時点では考えていない」「インフレ目標2%の達成に自信を持っている」などと発言すると、追加緩和への期待が剥落し円買いが優勢となった。また、米長期金利の低下を背景にドル/円が大きく下落 (同じ理由からユーロ/ドルは上昇したもののユーロ/円の下落を止められなかった) した事も重石となり140.084円の安値を付けた。
14日	前週末の間に、ウクライナ東部ドネツクで親ロシア派武装集団と治安部隊による衝突が発生し死傷者が出た事や、ドラギECB総裁が「ユーロ高が一段と進んだ場合はさらなる金融緩和策が必要になる」と発言した事を受けてオープン直後からユーロ売りが先行した。
16日	麻生財務相が「(株式について)年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) が6月から動くので外国人投資家が動く可能性がある」と発言した事を受けて日経平均株価が400円を超える大幅上昇となった。さらに、中国第1四半期国内総生産 (GDP) が前年比+7.4%と予想 (7.3%) を上回った事も安心材料としてリスク選好ムードを高め、ユーロ/円は141.70円台まで上昇した。
29日	ウクライナ情勢への懸念がやや緩和した事から欧州株の上昇とともに142.40円台まで上昇したが、独4月消費者物価指数・速報が前年比+1.3%と予想 (+1.4%) を下回ると141.50円台まで急落した。独消費者物価指数が予想を下回った事を受けて翌30日に発表されるユーロ圏4月消費者物価指数・速報値も予想を下回る伸びに留まるとの見方が強まり、ECBの追加緩和の思惑を絡めつつユーロ売りが活発化した。

EUR/JPY

今月のポイント

4月のユーロ/円相場は140.084円～143.471円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.3%の小幅な下落(ユーロ安・円高)となった。月初に143円台まで上昇したが、欧州中銀(ECB)理事会で、追加緩和の可能性が示唆された一方で、日銀金融政策決定会合では追加緩和の可能性が後退した事から140円付近まで下落。その後もウクライナ情勢への懸念がくすぶる中で上値が重く、140-141円台で推移した。月末には一時142円台に値を戻す場面も見られたが、独およびユーロ圏の4月消費者物価指数が予想を下回る伸びに留まったため戻りは限られた。4月のユーロは、対ドルで上昇した一方で対ポンドでは下落するなど、方向感が定まらず、通貨ペアの相手方の事情が相場の主な変動要因だった様子が窺える。つまり、ユーロ/円は、円高が主導する形で下落したと言えるだろう。

5月相場についても、ECBは追加緩和に動かず恒例の口先介入に留める公算が大きく、材料視しにくい。域内の景況感に著しい変化が見られなければ、やはり円の動きがカギを握る事になろう。円相場を動かす材料としては、日銀金融政策決定会合(21日)のほか、消費増税後の全国の物価状況が明らかとなる4月消費者物価指数(30日)などが注目される。また、リスクオン、リスクオフの流れが円相場に影響する可能性も高い。ウクライナ情勢などへの目配りも必要だろう。(神田)

(予想レンジ: 139.000～143.700円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

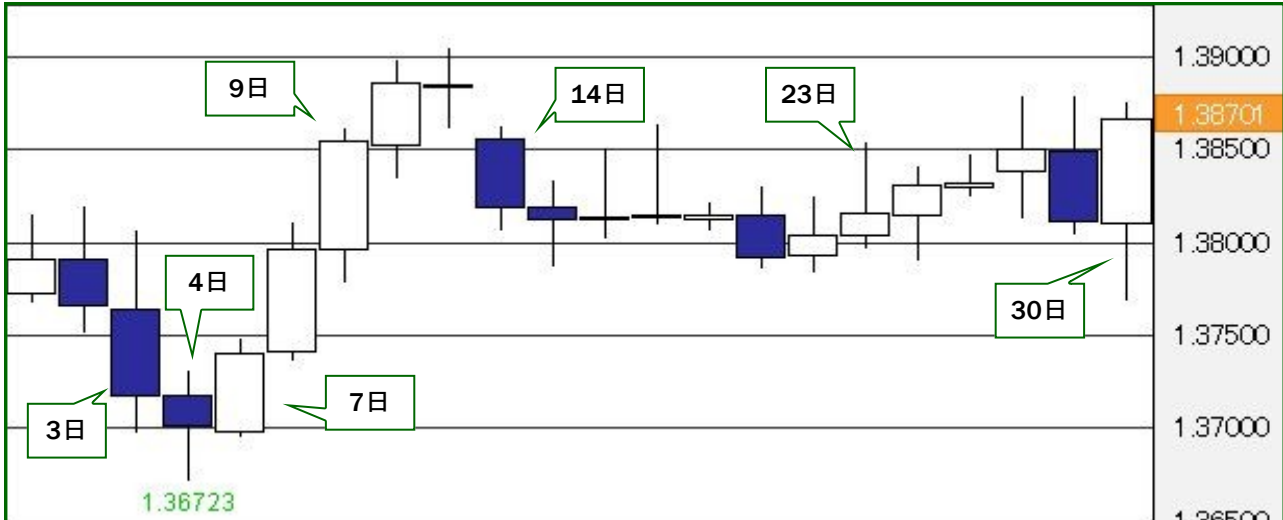
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/2(金)	3月ユーロ圏失業率	5/21(水)	日銀金融政策決定会合(20日～発表)
	4月米雇用統計		5月ユーロ圏消費者信頼感・速報
5/6(火)	3月ユーロ圏小売売上高	5/22(木)	5月中国HSBC製造業PMI
5/8(木)	4月中国貿易収支		3月独/ユーロ圏PMI製造業・速報
5/12(月)	3月日本経常収支・貿易収支		3月独/ユーロ圏PMIサービス業・速報
5/13(火)	4月中国鋳工業生産	5/23(金)	第1四半期独GDP・確報
	5月独/ユーロ圏ZEW景況感調査		5月独IFO景況指数
5/14(水)	3月ユーロ圏鋳工業生産	5/28(水)	5月独雇用統計
5/15(木)	第1四半期日本GDP・一次速報	5/30(金)	4月日本消費者物価指数
	第1四半期仏/独/ユーロ圏GDP・速報値		
	4月ユーロ圏消費者物価指数		
5/16(金)	3月ユーロ圏貿易収支		
5/21(水)	4月通関ベース貿易収支		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

ユーロ/ドル 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.37727ドル	1.39053ドル	1.36723ドル	1.38667ドル



3日	欧州中銀 (ECB) 理事会後の会見でドラギ総裁が「緩やかな景気回復が進んでいる」などと発言すると瞬間的に1.38065ドルまで上昇した。しかし、同総裁が続けて「追加金融緩和について排除しない」「非伝統的措置を活用する事について全会一致」「利下げやマイナス預金金利について協議した」「量的緩和は利用可能な一手段」などと発言すると一転してユーロ売りへと傾斜し1.37ドルを割り込んだ。
4日	米3月雇用統計で失業率が6.7%、非農業部門雇用者数が前月比19.2万人増と予想(6.6%、20.0万人増)よりやや弱めだった事からドル売りが強まると1.3730ドル台まで上昇した。しかし、前回、前々回分の雇用者数が上方修正されたほか、労働参加率が上昇(63.0%→63.2%)するなど、内容は決して弱くないとしてドルに見直し買いが入ると1.36723ドルまで一転して下落した。
7日	独2月鉱工業生産が前月比+0.4%と予想(+0.3%)を上回った事や、メルシュECB専務理事が「量的緩和は理論上の概念であり実施までには長い道のりがある」「デフレの差し迫ったリスクは見られない」などと発言すると追加緩和観測が後退して1.3740ドル台まで上昇した。
9日	米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事録は、焦点となっていた利上げ開始時期(イエレンFRB議長が、量的緩和終了後、約6カ月で利上げを行う可能性がある」とFOMC後の会見で示唆していた)について、特段の言及がなかった。これを受けて米国の早期利上げ観測が後退する形でドル売りが活発化すると1.3860ドル台まで急騰した。
14日	前週末の間に、ウクライナ東部ドネツクで親ロシア派武装集団と治安部隊による衝突が発生し死傷者が出た事や、ドラギECB総裁が「ユーロ高が一段と進んだ場合はさらなる金融緩和策が必要になる」と発言した事を受けてオープン直後からユーロ売りが先行した。
23日	仏4月PMI製造業・速報値が50.9と予想(51.9)を下回ると1.38ドルを割り込んだが、独4月PMI製造業・速報値とユーロ圏4月PMI製造業・速報値が54.2、53.3といずれも予想(53.8、53.0)を上回ると1.3850ドル台へと反発した。その後、NYダウ平均の軟調推移を眺めて上げ幅を縮小したものの、ノボトニー・オーストリア中銀総裁が「ECBの行動に差し迫った必要性は見られない」「いかなる措置も少なくとも6月まで待つべき」などと発言したため下げ渋った。
30日	ユーロ圏4月消費者物価指数・速報値が前年比+0.7%と予想(+0.8%)を下回る伸びとなった事を受けて1.3770ドル台まで下落したが、ECBが追加緩和に動くほどの弱さでもないとの見方から買戻しが入りすぐに反転。さらにFOMCで低金利政策を維持する方針が改めて示された事を受けてドルが売られたため、1.3870ドル台まで上伸した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

今月のポイント

4月のユーロ/ドル相場は1.36723ドル～1.39053ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースで約0.7%の上昇となった。ただ、前の月に付けた約4年5カ月ぶり高値(1.39665ドル)の更新はならなかった上に、月間の値幅が200ポイント強に留まるなど、方向感も動意も欠く展開だった。欧州中銀(ECB)が、すぐではないにせよ追加緩和の可能性を示している他、ウクライナ情勢の緊迫化など、ユーロ安に繋がってもおかしくない要因が多かったにもかかわらず上昇した事になるが、これはドルが下落した影響が大きい。米国の早期利上げ期待が後退した事により、市場としてはドル高シナリオの再考を迫られた格好であり、いきおい5月のユーロ/ドル相場の注目ポイントは米国情勢という事になりそうだ。米4月雇用統計や米4月小売売上高といった重要な景気指標に良好な結果が続けば、米国の早期利上げ観測が再燃する可能性もあろう。4月30日に発表された米連邦公開市場委員会(FOMC)の声明には早期利上げに関する記述は見られなかったが、会合初日(29日)に「中期的な金融政策」について討議する非公式会合を開催した事が明らかとなっており、今月21日に公表される議事録には、利上げを含む「出口戦略」の議論が盛り込まれる事も考えられる。

なお、ECBは今月の理事会では追加緩和に動かない見込みであり、来月以降の追加緩和のカギを握るユーロ圏5月消費者物価指数の発表が来月にずれ込む事も、ユーロ/ドル相場においてユーロが主役の座を掴みにくい要因となりそうだ。(神田)

(予想レンジ: 1.35000ドル～1.40000ドル)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

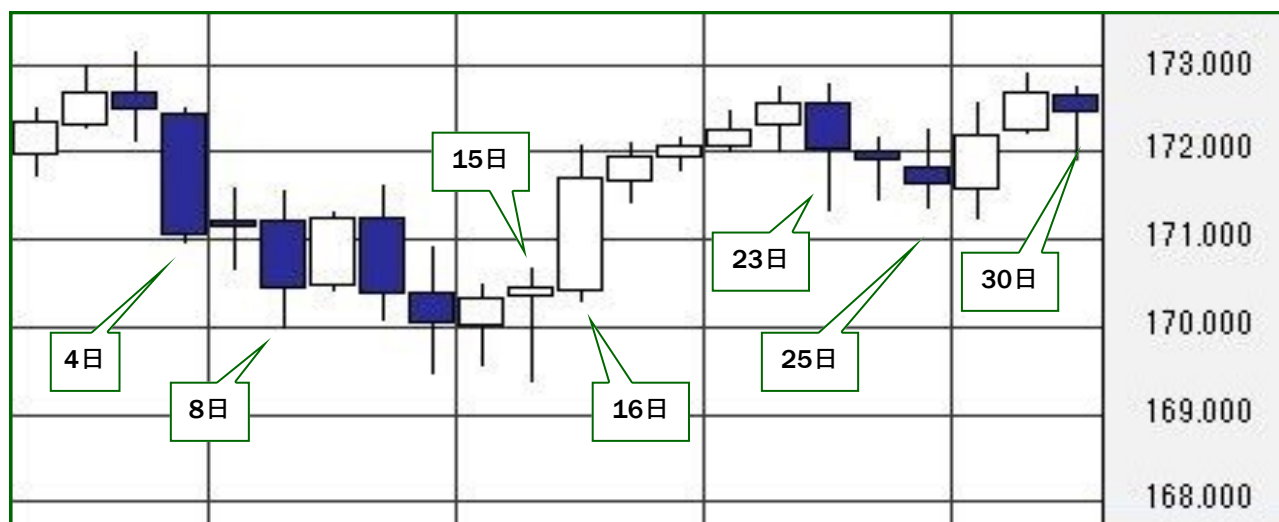
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(木)	4月米ISM製造業景況指数	5/15(木)	4月米鉱工業生産
5/2(金)	3月ユーロ圏失業率	5/16(金)	3月ユーロ圏貿易収支
	4月米雇用統計		4月米住宅着工件数
5/5(月)	4月米ISM非製造業景況指数	5/21(水)	5月ユーロ圏消費者信頼感・速報
5/6(火)	3月ユーロ圏小売売上高		米FOMC議事録(4月29・30日)
5/8(木)	欧州中銀金融政策発表	5/22(木)	5月中国HSBC製造業PMI
5/13(火)	4月中国鉱工業生産		3月独/ユーロ圏PMI製造業・速報
	5月独/ユーロ圏ZEW景況感調査		3月独/ユーロ圏PMIサービス業・速報
	4月米小売売上高		4月米中古住宅販売件数
5/14(水)	3月ユーロ圏鉱工業生産	5/23(金)	5月独IFO景況指数
5/15(木)	第1四半期仏/独/ユーロ圏GDP・速報値	5/27(火)	4月米耐久財受注
	4月ユーロ圏消費者物価指数	5/29(木)	第1四半期米GDP・改定値
	4月米消費者物価指数		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP / JPY

ポンド/円 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	171.996円	173.138円	169.398円	172.487円



4日	米3月雇用統計において、失業率が6.7%、非農業部門雇用者数が19.2万人増と市場予想(6.6%、20.0万人増)より弱かったことからドルは下落。ポンド/ドルとドル/円の双方でドル売りとなった影響を受けてポンド/円は乱高下した。しかし、その後にNYダウ平均が失速すると、連れ安となった。
8日	日銀金融政策決定会合で金融政策の据え置きが決定された。その後の記者会見で黒田日銀総裁が「現時点では追加緩和は考えていない」などと発言すると、円高が進行。英2月鉱工業生産が前月比+0.9%と市場予想(+0.3%)を大幅に上回ると、ポンド/円は急騰したものの、その後はドル/円の下げに連れて再び失速し、170.021円まで値を下げた。
15日	欧州市場に入り、仕掛け的なポンド売りで一時値を下げるも、英3月消費者物価指数が前年比+1.6%と市場予想通りの結果だったことから、すぐに下げ幅を圧縮した。
16日	麻生財務相が「(株式について)年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が6月から動くので外人投資家が動く可能性がある」と発言した事や、中国第1四半期国内総生産(GDP)が前年比+7.4%と市場予想(+7.3%)を上回る伸びを示した事を受けて日経平均株価が上げ幅を拡大すると、円安が進行。さらに、英3月雇用統計において、失業率3.4%(市場予想:3.4%)、失業保険申請件数3.04万件減(同3.0万件減)、12-2月ILO失業率6.9%(同7.1%)という結果を受け、ポンド/円は急騰した。
23日	英中銀(BOE)の金融政策委員会(MPC)議事録において、金融政策の全会一致の据え置きとともに、「国内の景気回復には勢いが付いている」「経済の緩みや中期的なインフレ見通しについてMPCメンバーの見解は様々」と記されていたことを受けて、発表直後のポンドは乱高下。しかし、次第に下値を切り下げる展開となった。NYダウ平均が下げたことも重石となり、171.359円まで値を下げた。
25日	英3月小売売上高指数(含自動車)は前月比-%と予想(-0.4%)に反してプラスの伸びとなった。これを受けてポンド/円は一旦上昇するも、同指数の前月が1.7%から1.3%に下方修正されたことからすぐに伸び悩んだ。
28日	米製薬大手ファイザーが英アストラゼネカに買収提案(成立すれば588億ポンド規模と、英国史上最大のM&A)を行ったと発表。アストラゼネカ側が一旦拒否した模様だが、ポンド高が進行した。
30日	日銀の展望レポートで2014年度の実質GDP見通しが下方修正された(+1.4%→+1.1%)ことを受けて弱含むも、黒田日銀総裁会見を波乱なく通過すると小戻すなど、ポンド/円相場の反応は限定的だった

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP / JPY

今月のポイント

4月のポンド/円相場は169.398円～173.138円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.3%の上昇（ポンド高・円安）となった。

4月のポンド/円は、月初に173円台まで上昇したものの、その後は主要国株価が軟化するに従って反落。170.000円を割り込むと底堅さを見せ、日本のGPIFについての思惑などを絡めた円売りもあって再び反発するも、173円目前で頭の重さが目立つ展開となった。英国の材料で動く場面も散見されたが、持続性には乏しかった。

足元の英国は経済指標に良好な結果が目立つ一方で、英中銀（BOE）は早期利上げ期待が強まらないように牽制する状態が続いている。ただ、5月はBOEの四半期インフレレポートが発表される。この中で、経済成長や物価上昇率の見通しが上方修正されているようなことがあれば、市場で再び早期利上げ期待が拡がり、ポンド高圧力をかける可能性がある。

ただ、足元の為替相場は全般的に「テーマ不足」感が否めない。目新しいリスク要因が見つければ、ポンドに多少上昇要因があったとしても、一気にポンド安・円高が進むこともあり得るだろう。その場合、4月安値169.398円、3月安値167.774円、2月安値163.879円が順次下値の目標となろう。

一方、穏やかなリスクオンムードが拡がった場合、1月下旬以降、ポンド/円の頭を押さえ続けている173円台半ばを突破し、どこまで上値を伸ばせるかが焦点となろう。（石川）

（予想レンジ：167.000～175.000円）

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(木)	4月英PMI製造業	5/14(水)	BOE四半期インフレレポート
	4月米ISM製造業景況指数	5/15(木)	日本第1四半期GDP・一次速報
5/2(金)	4月英PMI建設業	5/19(月)	3月日本機械受注
	4月米雇用統計	5/20(火)	4月英消費者物価指数
5/5(月)	4月米ISM非製造業景況指数	5/21(水)	4月日本通関ベース貿易収支
5/6(火)	4月英PMIサービス業		日銀金融政策決定会合(20日～発表)
5/7(水)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (4月7・8日分)		BOE議事録
5/8(木)	BOE政策金利発表	5/22(木)	4月英小売売上高指数
5/9(金)	3月英鉱工業生産		第1四半期英GDP・改定値
	3月英商品貿易収支	5/26(月)	日銀金融政策決定会合議事要旨(4月30日分)
5/12(月)	3月日本経常収支・貿易収支	5/29(木)	第1四半期米GDP・改定値
5/13(火)	4月米小売売上高	5/30(金)	4月日本消費者物価指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

ポンド/ドル 3月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.66642ドル	1.68997ドル	1.65440ドル	1.68729ドル



4日	米3月雇用統計が発表される直前に仕掛的なドル買いが入ると、ポンド/ドルは下落。発表された米3月雇用統計は失業率が6.7%、非農業部門雇用者数が19.2万人増と市場予想(6.6%、20.0万人増)より弱かったことから、発表直後はドル売りが強まったが、内容的には悪いものではなかったことから継続はしなかった。
8日	英2月鉱工業生産が前月比+0.9%と市場予想(+0.3%)を大幅に上回ると、ポンド/ドルは急騰。その後も全般的にドル売りが強まる中で上値を伸ばした。
9日	連邦公開市場委員会(FOMC)の議事録が公表され、「大半の参加者はインフレ率が2%に上昇すると予想」などが指摘されるも、米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長が会見で触れた「量的緩和が終了した約6カ月後に利上げの可能性」についての指摘はなかった。これを受けて早期の利上げ期待が後退し、米長期金利が低下してNYダウ平均株価が上昇すると、ポンド/ドルは上昇した。
16日	英3月雇用統計にて、失業率3.4%(市場予想:3.4%)、失業保険申請件数3.04万件減(同3.0万件減)、12-2月ILO失業率6.9%(同7.1%)という結果を受け、ポンドは急騰した。
23日	英中銀(BOE)の金融政策委員会(MPC)議事録において、金融政策の全会一致の据え置きとともに、「国内の景気回復には勢いがついている」「経済の緩みや中期的なインフレ見通しについてMPCメンバーの見解は様々」との内容が明らかになった。これを受け、発表直後のポンドは乱高下するも、次第に下値を切り下げる展開となった。NYダウ平均が下げたことも重石となった。
28日	米製薬大手ファイザーが英アストラゼネカに買収提案(成立すれば588億ポンド規模と、英国史上最大のM&A)を行ったと発表。アストラゼネカ側が一旦拒否した模様だが、これを受けてポンド高が進行した。
30日	米第1四半期国内総生産(GDP)・速報値が前期比年率+0.1%と市場予想(+1.2%)よりも大幅に弱い結果だったことを受けてドル売りが強まり、ポンド/ドルは1.68997ドルの高値を付けた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP / USD

今月のポイント

4月のポンド/ドル相場は1.65440ドル～1.68997ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.3%の上昇(ポンド高・ドル安)となった。

4月のポンド/ドル相場は、8日の英2月鉱工業生産の好結果を受けてポンド高が進んだ他、30日の米第1四半期国内総生産(GDP)・速報値の弱い結果を背景とするドル売りによって上昇し、約4年8カ月ぶりの高値を付けた。しかし、上述の2日間以外については、ほとんど方向感が出ない状態だった。手掛かり材料となりそうなリスク要因も特になかった上、英国も米国も、金融政策に対する思惑が変化するほど、経済指標に偏りが見られなかった点が大きかったと言えそうだ。

引き続き、米国と英国の経済指標や要人発言を眺めながら、両国の金融政策について変更期待が台頭するかどうかを見極める必要がある。米国については、5月はFOMCがないため、よほど経済指標が好悪どちらかに偏らない限り、強い期待が生まれにくいと考えられるが、英国については、BOEの四半期インフレレポートの内容が、ポンド相場に新たな期待を発生させるきっかけになる可能性がある。実質成長率やインフレ率の見通しについて、前回レポートから上方修正されていれば、英国の早期利上げ期待が再燃し、ポンドを押し上げる要因となろう。ポンド/ドルが上昇した場合は、2009年8月高値1.70430ドルがターゲットとみる。

一方、株が急落するなど、市場全体のリスク許容度が縮小する事態になった場合は、4月安値1.65440ドルでまず下げ止まるかがポイントとなろう。(石川)

(予想レンジ:1.63000～1.71000ドル)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(木)	4月英PMI製造業	5/16(金)	4月米住宅着工件数
	4月米ISM製造業景況指数		5月米シカゴ大消費者信頼感指数・速報値
5/2(金)	4月英PMI建設業	5/20(火)	4月英消費者物価指数
	4月米雇用統計	5/21(水)	BOE議事録
5/5(月)	4月米ISM非製造業景況指数		米FOMC議事録(4月29・30日)
5/6(火)	4月英PMIサービス業	5/22(木)	4月英小売売上高指数
5/8(木)	BOE政策金利発表		第1四半期英GDP・改定値
5/9(金)	3月英鉱工業生産	5/23(金)	4月米新築住宅販売件数
	3月英商品貿易収支	5/27(火)	4月米耐久財受注
5/13(火)	4月米小売売上高		5月米消費者信頼感指数
5/14(水)	BOE四半期インフレレポート	5/29(木)	第1四半期米GDP・改定値
5/15(木)	4月米消費者物価指数	5/30(金)	5月米シカゴ購買部協会景気指数
	5月米フィラデルフィア連銀景況指数		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。